

## 議事録（概要）

会議名	2019年度第4回 市町村等公文書管理支援事業検討会議	記載日	2020年2月25日（火）
		記載者	（公財）沖縄県文化振興会 公文書管理課
日時	2020年2月13日（木） 10:00～15:00		
場所	沖縄県公文書館 会議室		
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シンポジウムについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日のタイムスケジュール説明</li> <li>・発表者の発表概要説明</li> <li>・ディスカッションの進行について</li> </ul> </li> <li>2. 公文書管理法と県内地方自治体の公文書管理ルールとの比較 <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較分析の方向性について</li> </ul> </li> <li>3. アンケート集計結果</li> <li>4. 次回検討会議の開催時期について</li> <li>5. その他</li> </ol>		
出席者	外部有識者：小谷允志（出版文化社アーカイブ研究所長） 真栄城香代子（前沖縄県公文書館長） 事務局：上與那原美和子（沖縄県公文書館長）、大城博光（同公文書管理課長） 仲本和彦（同資料公開班長）、瑞慶村節子（同評価選別嘱託員）		
欠席者	無し		
審議事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シンポジウムについて <ul style="list-style-type: none"> <li>□事務局から参加申込状況について報告及び、タイムスケジュール表にそって、説明がなされ、会場の場所、座席配置等について大城課長から補足説明があった。</li> <li>※進め方について、議題の2、3、1の発表者の発表概要説明、ディスカッションの進行について、の順で進めることになった。</li> </ul> </li> <li>2. 公文書管理法と県内地方自治体の公文書管理ルールとの比較（小谷） <ul style="list-style-type: none"> <li>□沖縄県市町村文書取扱規程に見る問題点について、進言する10項目について説明。講演では、その中で重要と思われる5項目について提言する。</li> <li>□総括文書管理者と公文書管理者の関係、保存期間の有期限化、決裁権限者の考え方等について、意見交換があった。</li> </ul> </li> <li>3. アンケートの集計結果について（大城） <ul style="list-style-type: none"> <li>□アンケート質問にそって、集計結果の説明。さらに「歴史公文書の保存状況（根拠規程と保尊量）」暫定版について説明。</li> <li>□公文書等の言葉の定義づけをしっかりと行ったうえで進めた方がよいので、シンポジウムで説明を加えていくことにした。</li> </ul> </li> </ol>		

## 次第1. シンポジウムについて

### ・発表者の発表概要について

#### 【小谷】「公文書管理法の求める地方自治体の公文書管理」

- 公文書管理の基本法制定に関する各国の状況、公文書管理法ができる前の状況、情報公開法と公文書管理法との関係、公文書管理と公文書のライフサイクル管理、専門職不在問題、沖縄県市町村文書取扱規程に見る問題点、公文書管理の重要性など概要説明。

#### 【仲本】「地域の歴史と公文書管理」

- 沖縄県内の公文書管理の現状と今後あるべき姿や文書管理のさまざまな問題について説明。
- 講演のタイトルと内容に齟齬がある旨の発言があり、現状の「落穂拾い型」では地域の歴史が失われるため「スケジュール型」への移行と文書担当者の役割の重要性を伝えたい旨、回答があった。

#### 【大城】「市町村文書管理アンケート結果について」

- レジюме1（市町村文書管理支援活動の概要）、2（市町村文書管理アンケートの集計結果から）と資料②（アンケート調査の集計結果）、③ {歴史公文書の保存状況（根拠規程と保存量）暫定版} を使って話をする方向でいくこととした。
- アンケート結果については、中間報告であり、最終的には報告書にまとめる旨、伝え方がよい、との発言があった。

#### 【仲本】「ディスカッションの進行について」

- ディスカッションの進行について、基本的にフロアから現場からの声を聴くことを中心に進めていき、発言がない場合は、大城課長の参考資料から話題を取り上げていくこととし、市町村単独、担当者のみだけでなく、財団も後押ししていきたいことを話してしめたい。
- 講演についての質疑応答の時間をディスカッションに入る前に時間を取る予定であるが、時間がとられないか、危惧している。
- 質疑応答の時間はそれぞれの講演時間のなかで5分間、時間をとる。ディスカッションはそのまま始める。

## 4. 次回検討会議の開催時期について

- 次回は、4月23日（木）とする。

## 5. その他

- なし